

アジア株式市場の見通し

～新型コロナの感染懸念が再燃、中・越優位の展開続く～

2021年6月号

アイザワ証券 市場情報部

2021年6月1日発行/審査番号：210601-A1

世界全体とアジア新興国の状況

＜＜世界全体の状況＞＞

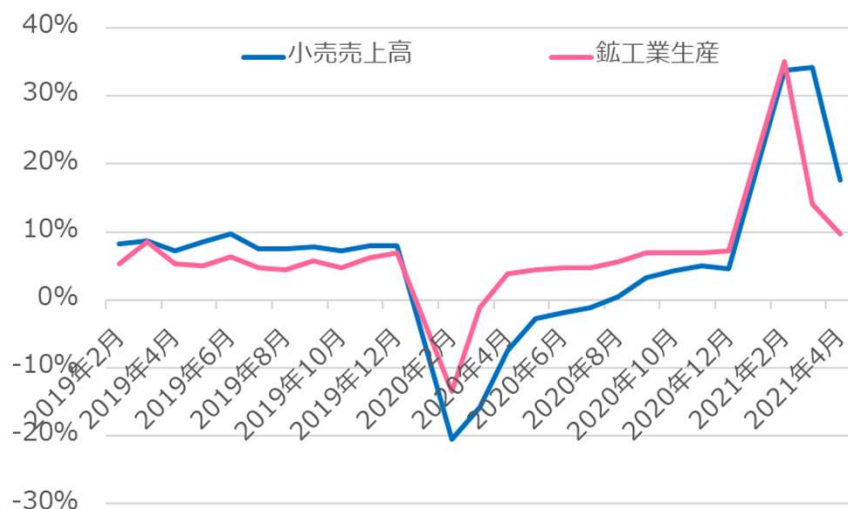
- 米国や英国など先進国を中心に新型コロナワクチンの接種が順調に進み、新型コロナ禍の終息を見据えて景気回復期待が強まった。バイデン政権は3月に総額1.9兆ドルの「米国救済計画」を法案として成立させたほか、新たに「米国雇用計画」（8年間で総額2兆ドル）と「米国家族計画」（10年間で総額1.8兆ドル）を打ち出すなど、大規模な財政刺激を継続する構えを見せている。
- 米国の景気回復を受けて、アジアでは中国やベトナムの対米輸出が拡大し、鉄鋼や一般消費財、海運関連企業の業績が好調に推移している。また、需要の急増やインフレ期待の高まりを背景に、原油や銅、鉄鉱石などの原材料価格が上昇していることから、中国メーカーを中心に建機や鋼材、化工製品の値上げを行う動きが広がっている。

＜＜アジア新興国の状況＞＞

- アジア新興国は、中国とベトナムの経済が好調で他の地域は回復途中という構図に変わりはないものの、今まで新型コロナの封じ込めに成功していたタイやベトナム、台湾で変異ウィルスの新規感染者が見つかったため、これらの地域で生産や消費活動への悪影響が懸念されている。当面は新型コロナの感染状況に注意しながら、中国の製造業関連企業とベトナムの輸出・不動産関連企業に注目。
- 各国の株式市場を見ると、中国本土市場はマネーサプライ（M2）が過去最低に近い伸びを記録したことで、追加引き締め懸念が後退して株価反発局面に入る可能性がある。またベトナム市場は、好調な輸出と金融緩和を背景にVN指数が史上最高値を更新し、今後相場強含みの展開が予想される。

中国の実体経済は好調、PPI上昇で製品値上げの動き広がる

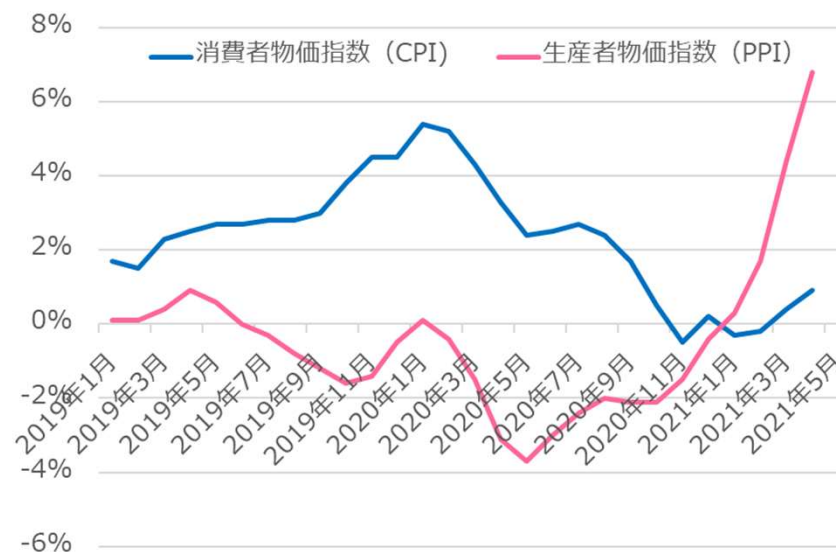
中国の小売売上高と鉱工業生産の伸び



※前年同期比の伸び率。旧正月の影響を考慮して、1～2月は合計値を使用。

[出所：ブルームバーグ、アイザワ証券作成]

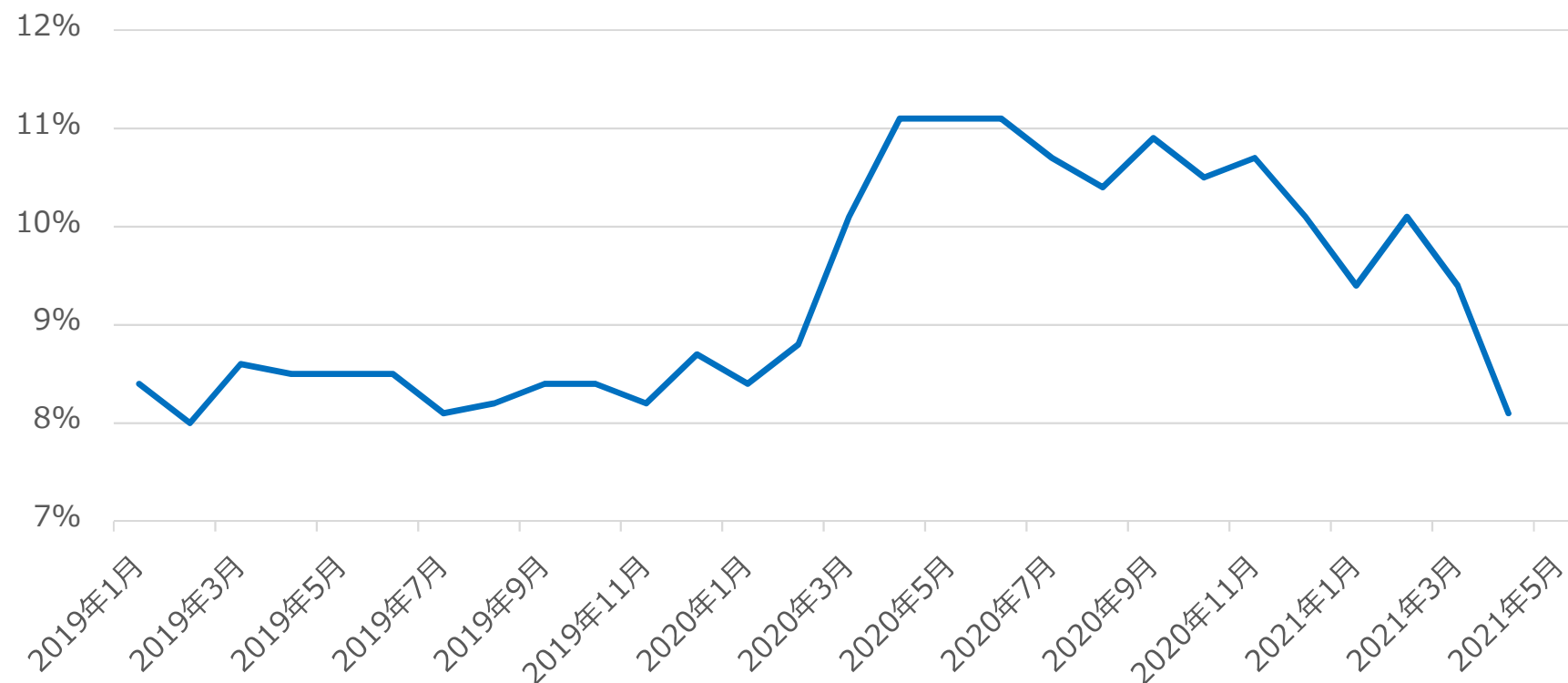
中国のCPIとPPIの伸び率の推移



※前年同期比の伸び率 [出所：ブルームバーグ、アイザワ証券作成]

- 5月17日に発表された中国の4月の小売売上高は前年同期比+17.7%、鉱工業生産は同+9.8%と、新型コロナウイルス禍の反動で大幅増になった前月に比べて減速したものの、依然高水準の成長を維持した。また、5月7日に発表された4月の輸出総額（米ドルベース）も同+32.3%と好調で、主にASEANやEU、米国向けの輸出が拡大した。一方、為替面では1米ドル=6.3元台と人民元高が急速に進行しているため、今後は中国の輸出関連企業への影響が注目される。
- 5月11日に発表された4月の中国の消費者物価指数（CPI）は前年同期比+0.9%、生産者物価指数（PPI）が同+6.8%と、CPIの伸びが緩やかだった一方、原材料価格の上昇を背景にPPIが大幅に上昇した。これを受けて、中国では鉄鋼や建機、化工製品を値上げする動きが広がっている。

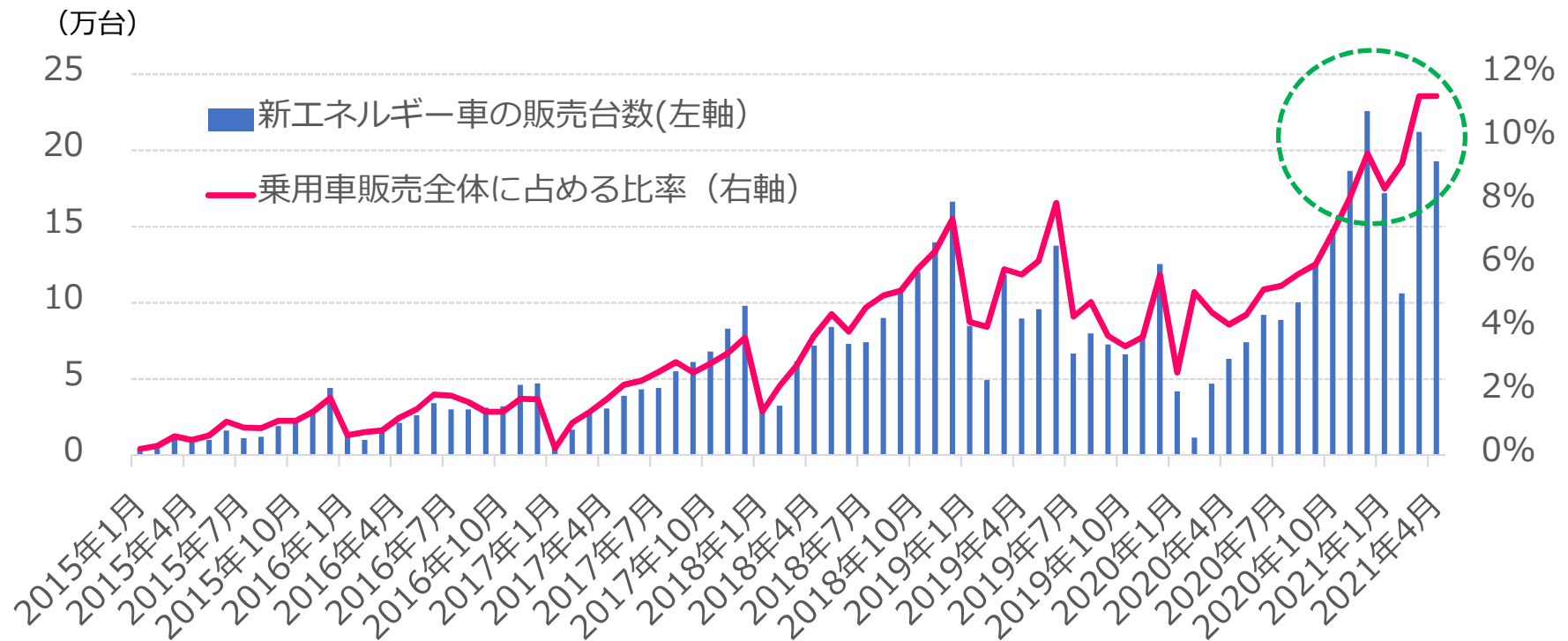
中国のマネーサプライ（M2）は過去最低に近い伸びを記録



※前年同期比の伸び率 [出所：ブルームバーグ、アイザワ証券作成]

- 5月12日発表された中国の4月のマネーサプライ（M2）は前年同期比+8.1%と、過去最低水準（+8.0%）に近い伸びを記録した。昨年3月以降、中国当局は新型コロナ禍による景気への悪影響を和らげるために金融緩和を実施したが、その後景気の正常を受けてマネーサプライの伸びは11%台から再び8%に低下した。このことは中国の金融正常化の動きが一段落したことを示唆しており、今後流動性に影響されやすい中国本土市場の株価は反発に向かう可能性がある。

中国の新エネルギー車（NEV）の月間販売台数の推移



[出所：WIND、アイザワ証券作成]

- 中国自動車工業協会が発表した1～4月の新エネルギー車（NEV、乗用車のみ）の販売台数は、前年同期比4.2倍の68万2538台と、乗用車販売全体の約1割を占めるようになった。また、別の業界団体である全国乗用車市場情報連合会（乗連会）は、国内主要6都市でNEVの販売比率が約2割になったと発表しており、政策支援を追い風に中国でNEVの販売が急速に伸びている。
- 中国のNEVのメーカーの中で、複数の独自ブランドと合併会社を持つ上海汽車とテスラ、BYDの販売台数が多く、今後NEVの普及に伴って各社の業績成長が期待される。

香港ハンセン指数は構成銘柄の入れ替えを発表

5月21日、香港ハンセン指数とハンセン中国企業指数（元H株指数）の算出元であるハンセン指数有限公司は、4半期ごとの構成銘柄入れ替えの検討結果を発表した。

銘柄の入れ替えは6月7日より実施される予定。

■ **香港ハンセン指数** 現行の55銘柄から58銘柄に変更、構成銘柄の変更は以下の通り。

新規採用：シンイー・ソーラー（香港：968）、BYD（香港：1211）、カントリーガーデン・サービス・ホールディングス（香港：6098）の3銘柄。

削除：無し。

■ **ハンセン中国企業指数** 現行の51銘柄から50銘柄に変更、構成銘柄の変更は以下の通り。

新規採用：BYD（香港：1211）、エバーグランド・プロパティ・サービス・グループ（※香港：6666）の2銘柄。

削除：カントン・インベストメント（香港：270）、チャイナ・ユニコム（香港：762）、中国鉄塔（香港：788）の3銘柄。

※エバーグランド・プロパティ・サービス・グループ（香港：6666）は当社取扱外の銘柄。

今回の構成銘柄入れ替えでは、BYDがハンセン指数とハンセン中国企業指数に採用された一方、今年2月に上場したクアイショウ（香港：1024）はハンセン指数への採用が見送られた。

JDドットコム傘下の物流部門が香港に上場

5月28日、JDドットコム（香港：9618）傘下の物流部門であるJDロジスティックス（香港：2618）は香港市場に新規上場した。同社は今回のIPOで総額246億香港ドル（約3476億円）の資金調達を行い、倉庫や輸送、国際ネットワークの強化、技術の研究開発などに充てる予定。

■ JDロジスティックス（香港：2618）の企業概要

JDロジスティックスは、中国の大手物流企業。同社は2007年にJDドットコム傘下の物流部門として設立され、サプライチェーンや工場から倉庫、流通チャネル、最終顧客まで一連の物流サービスを手掛ける。業界大手のSFホールディング（深センA：002352）に比べて売上規模が約半分程度となっているものの、EC向けの企業顧客が多く、倉庫の数や面積の点では国内最大規模を誇る。

同社は自動化や無人操縦に関する2500件以上の特許を保有し、ロボットやAI、ビッグデータを駆使した商品の仕分け、ピッキング、在庫管理、配送などに強いのが特徴。中国全土に900カ所以上の自社物流倉庫（合計面積2100万㎡）を運営、このうち32カ所は「アジア1号」と呼ばれるロボット主体のスマート倉庫で、迅速かつ効率的なフルフィルメント（受注から配送までの業務）を可能にしている。

■ JDロジスティックス（香港：2618）の業績推移

同社の過去3年間の売上高は、2018年が379億元、2019年が498億元、2020年が734億元と年平均+39%のペースで伸び続けており、調整後純利益（上場前の優先株の買戻し条項に関する評価損など一時的な影響を除く純利益）は2020年に黒字転換（17億元の黒字）を果たした。

2020年の顧客別の売上高は、JDドットコム向けが54%、他社顧客向けが46%と、JDドットコムへの依存度が低下した一方で、直近3年で外部顧客向けの比率が29%から46%に拡大した。また、2020年末時点で売上貢献100万元以上の大口顧客数は2306社と、直近3年で大口顧客の数が2倍以上になり、今後は大口顧客向けの売上拡大や物流システムの効率化などを背景に成長していく見通し。

中国の主な香港上場企業の1～3月決算

銘柄名	銘柄コード	業種	決算発表日		2021年1～3月決算		決算内容
					売上高	純損益	
BYD	香港1211	自動車	4月28日	金額	409.9億元	2.4億元	政府補助金や固定資産売却損益などを除く調整後純損益は0.8億元の赤字だった。1～3月の自動車販売台数は前年同期比70%増の10.4万台、うち新エネルギー車の販売台数は同147%増の5.5%と好調。電子部品の販売増も増収増益に寄与。会社側は1月に香港で割当増資を実施。
				前年比伸び率	108.3%	110.7%	
東方電気	香港1072	産業用設備	4月29日	金額	108.7億元	6.3億元	政府の補助金や固定資産売却損益などを除く調整後純利益は前年同期比43%増だった。1～3月の新規受注は同32%増と好調。主に再生可能エネルギー（風力、水力発電機等）と新興成長産業（電力システム、燃料電池等）向けの売上高が拡大し、増収増益に貢献した。
				前年比伸び率	32.7%	59.9%	
中聯重科	香港1157	機械	4月29日	金額	190.5億元	24.2億元	政府の補助金や固定資産の売却損益、投資評価損益などを除く調整後純利益は前年同期比158%増だった。省力化投資や建機の買い替えを背景に大幅増収増益。会社側は研究開発費を前年同期の3.4倍に大幅増額。
				前年比伸び率	110.1%	135.4%	
SMIC	香港981	半導体	5月13日	金額	11.0億米ドル	1.6億米ドル	旺盛な半導体需要と生産能力の拡大を背景に売上高が 2 割以上伸びたほか、販管費が前年同期に比べて33%減少したことで、大幅増益になった。会社側が出した4～6 月の売上高見通しは1～3 月比 17%～19%増（前年同期比 38%～40%増）と見通しも好調。
				前年比伸び率	22.0%	147.6%	
アリババ・グループ・ホールディング	香港9988	IT	5月13日	金額	1874.0億元	▲54.8億元	株式報酬や無形資産の償却、投資評価損益、独禁法違反の罰金（182 億元）などの影響を除く調整後純利益は前年同期比18%増益だった。主要事業の売上高は、中核商取引が同72%増、クラウドが37%増と好調、今年通期は前年比30%以上の増収になる見通し。
				前年比伸び率	63.9%	赤字転落	
ネットイース	香港9999	IT	5月18日	金額	205.2億元	44.4億元	株式報酬を除く調整後純利益は前年同期比21%増だった。事業別の売上高は、オンラインゲームが同11%増、オンライン学習（ヨードオ）が同148%増、イノベーション及びその他が同40%増。ゲーム事業が堅調に伸びたほか、新規事業であるヨードオの収入も大幅に増加した。
				前年比伸び率	20.2%	25.0%	

中国の主な香港上場企業の1～3月決算

銘柄名	銘柄コード	業種	決算発表日		2021年1～3月決算		決算内容
					売上高	純損益	
バイドゥ	香港 9888	IT	5月18日	金額	281.3億元	256.5億元	クアイショウ関連の投資評価益（236億元）や株式報酬などを除く調整後純利益は前年同期比39%増だった。事業別の売上高は、オンライン広告やクラウドサービスなどのバイドゥ中核収入が同34%増、動画配信収入が同4%増。うちクラウドサービスが同70%増と好調。
				前年比伸び率	24.8%	626倍	
JDドットコム	香港 9618	IT	5月19日	金額	2031.8億元	36.2億元	株式報酬や投資評価損益などを除く調整後純損益は前年同期比34%増だった。事業別の売上高は、ネット通販が同35%増、物流が同64%増、新事業が同56%増と好調。過去 12 か月間のアクティブ・ユーザー数は同29%増の4億9980 万人と高い伸びを維持した。
				前年比伸び率	39.0%	237.2%	
テンセント・ホールディングス	香港 700	IT	5月20日	金額	1353.0億元	477.7億元	投資評価損益などを除く調整後純損益は前年同期比22%増益だった。事業別の売上高は、付加価値サービスが前年同期比16%増、モバイル決済とクラウドが同47%増、オンライン広告が同23%増、その他が同39% 増と好調。「WeChat」の利用者数は同3%増の12.4億人に拡大した。
				前年比伸び率	25.2%	65.3%	
クアイショウ・テクノロジー	香港 1024	IT	5月24日	金額	170.2億元	▲577.5億元	上場前の優先株の買戻し条項に関する評価損（上場によって評価損は解消済み）と株式報酬を除く調整後純損益は49億円の赤字だった。注目指標である「クアイショウ」アプリの一日あたりの利用者数は前年比17%増の2.95億人に伸びたほか、広告とEコマース事業の収入も急拡大した。
				前年比伸び率	36.6%	赤字拡大	
シャオミ	香港 1810	IT	5月26日	金額	768.8億元	77.9億元	株式報酬や投資評価損益などを除く調整後純損益は前年同期比164%増だった。事業別の売上高は、スマートフォンが同70%増、IoTと消費者向け製品が同41%増、インターネットサービスが同11%増、その他が同17%増。製品の販売好調と粗利益率の上昇は好決算に寄与した。
				前年比伸び率	54.7%	260.6%	
美团点评	香港 3690	IT	5月28日	金額	370.2億元	▲48.5億元	株式報酬や投資評価損益などを除く調整後純損益は39億円の赤字だった。事業別の売上高は、フードデリバリーが前年同期比117%増、来店・ホテル・旅行予約が同123%増、新事業やその他が同137%増と新型コロナ禍の反動で伸びた一方、新事業向けの先行投資が拡大したため赤字に。
				前年比伸び率	120.9%	赤字拡大	

中国株式市場の注目銘柄（香港上場）

好業績な再生可能エネルギー、製造業関連銘柄に注目

■ BYD（香港：1211）・・・新エネルギー車の販売拡大と二次電池の成長に期待

中国の新エネルギー車（NEV）・二次電池大手。NEVや電子部品、二次電池・太陽光電池などの製造販売を手掛ける。2020年本決算は前年比26%増収、同162%増益と、自動車販売台数が減少したものの、マスクや電子部品、太陽光電池の販売増で好決算。2021年1～3月決算は前年同期比108%増収、同111%増益と、新型コロナ禍の反動で業績が持ち直したほか、NEVの販売台数も前年同期の2.5倍に急拡大した。今後は高機能NEVの投入や独自のブレード電池の外販開始などの動きに注目。

■ 東方電気（香港：1072）・・・再生可能エネルギーの利用拡大に伴う発電設備の受注増加を見込む

中国の大手発電設備メーカー。超々臨界圧発電や原子力発電設備に強みを持ち、水力や風力などの再生可能エネルギー設備などの製造販売も手掛ける。2020年本決算は前年比14%増収、同46%増益と好調。風力や環境関連設備の販売増加が好決算に寄与。今後は新エネルギーの利用拡大を背景に水力や風力、原発の受注増加が予想されるほか、株価水準もPBR1倍以下と割安感がある。

■ 中聯重科（香港：1157）・・・建機の買い替え需要増と省力化投資、製品値上げが業績の追い風に

中国の大手建機メーカー。各種クレーンとコンクリート機械に強みを持っており、このうち建築用クレーンは世界首位、コンクリートポンプは国内首位、ミキサーは国内第3位のシェアを誇る。2020年本決算は前年比50%増収、同67%増益、2021年1～3月決算は前年同期比110%増収、同135%増益と好調。今後は建設機械の買い替えと省力化投資の増加、製品の値上げが業績を押し上げる見通し。

中国株式市場の注目銘柄（本土上場）

■ 美的集団（深センA:000333）・・・輸出増加と設備投資の回復で恩恵を受ける見通し

中国の大手白物家電メーカー。エアコンや冷蔵庫、洗濯機、キッチン用家電、その他小型家電の製造販売を手掛ける。2016年に東芝の白物家電事業である東芝ライフスタイルを、2017年にドイツの産業用ロボット大手であるクーカを買収するなど、近年は海外展開と事業の多角化に注力。2020年本決算は、売上高が前年比2%増収、同12%増益と新型コロナ禍で業績が伸び悩んだものの、2021年1～3月決算で前年同期比42%増収、同34%増益と大きく回復。今後は輸出増加で恩恵を受ける見通し。

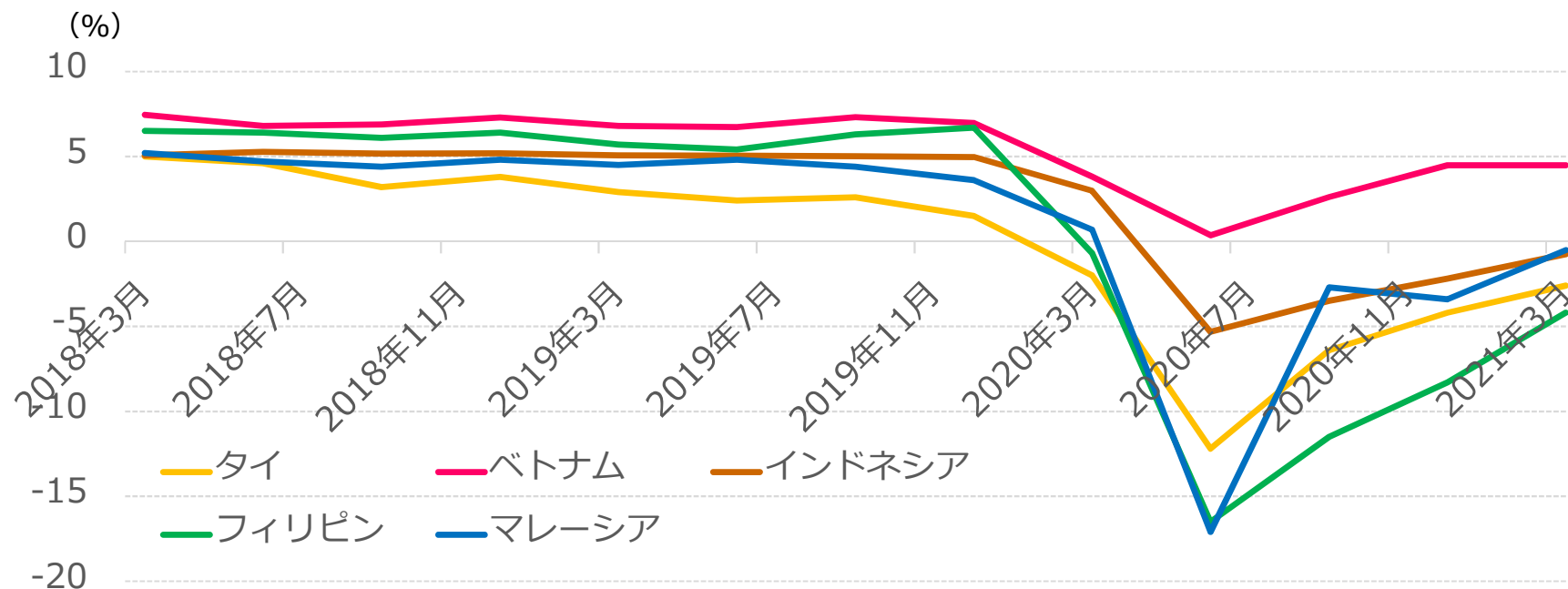
■ ゴアテック（深センA:002241）・・・1～3月の好決算で業績の成長鈍化懸念を払しょく

中国の大手電子部品メーカー。主にスマートフォンやタブレット型端末、ゲーム機、その他電子デバイスなどに内蔵される音響部品の製造・販売を手掛けており、アップルの無線イヤホン「AirPods」の受託製造企業として知られる。2020年本決算は前年比64%増収、同122%増益と、無線イヤホンやAR/VR製品、ウェアラブルデバイスの販売が急増して業績を押し上げた。また、2021年1～3月の業績は、前年同期比117%増収、同228%増益と好調で、業績の成長鈍化懸念を払しょくした格好。会社側は2021年1～6月の業績について、同100%～130%の増益を見込んでいる。

■ 三一重工（上海A:600031）・・・油圧ショベルの販売好調が業績の追い風に

中国の大手建機メーカー。建機業界では米キャタピラーと日本のコマツに次ぐ世界3位。油圧ショベルやコンクリート機械、クレーン、杭打ち機といった建設機械の製造・販売を手掛ける。このうち油圧ショベルの国内シェアは26%（2019年）と、9年連続で国内首位を誇る。2020年本決算は前年比31%増収、同36%増益と好決算。2021年1～3月決算も前年同期比93%増収、同146%増益と好調。今後は建設機械の買い替え需要増加と省力化投資の拡大が業績の追い風になる見通し。

ASEAN各国の実質GDP成長率の推移



[出所：ブルームバーグ、アイザワ証券作成]

- 5月中旬までに発表されたASEAN各国の2021年1～3月実質GDP成長率は、ベトナムが前年比+4.5%と新型コロナ禍前の水準を上回ったほか、インドネシア（同-0.7%）とマレーシア（同-0.5%）、タイ（同-2.6%）、フィリピン（同-4.2%）も景気の最悪期から脱している。
- 足元、ASEAN各国の新型コロナワクチン接種率（1回以上）はほとんど5%以下となっているため、内需に頼るインドネシアやフィリピン、観光需要に頼るタイは景気の回復が遅れる見通し。一方、ベトナムは、5月末に国内で確認された変異ウィルスの感染動向に注意する必要があるものの、輸出を中心に堅調な成長を維持する公算が高いと思われる。

アジア各地域の新型コロナウイルス感染者数とワクチン接種状況

国名	感染者数		累計死者数	ワクチン接種		使用したワクチンの製造元
	累計	新規 (5/30)		累計接種回数	接種率 (1回以上)	
インド	2789万4800人	16万5553人	32万5972人	1億9172万回	10.9%	印セラム、印バート
インドネシア	181万6041人	6115人	5万404人	2479万回	5.5%	中シノバック、中シノファーム、英アストラゼネカ
フィリピン	122万3627人	7045人	2万860人	410万回	2.9%	中シノバック、英アストラゼネカ
日本	73万8045人	2877人	1万2819人	878万回	4.8%	米ファイザー、米モデルナ
マレーシア	56万5533人	6999人	2729人	254万回	4.9%	米ファイザー、中シノバック、英アストラゼネカ
タイ	14万3526人	4528人	3216人	291万回	2.8%	中シノバック、英アストラゼネカ
韓国	13万9910人	430人	1957人	554万回	7.4%	米ファイザー、英アストラゼネカ
中国	9万1072人	27人	4636人	5億1086万回	-	中シノファーム、中シノバック、中カンシノ
シンガポール	6万2028人	25人	32人	341万回	33.6%	米ファイザー、米モデルナ
香港	1万1837人	0人	210人	215万回	16.7%	中シノバック、中独の復星&ビオンテック
台湾	8160人	354人	110人	30万回	-	英アストラゼネカ
ベトナム	6908人	199人	47人	101万回	1.0%	英アストラゼネカ

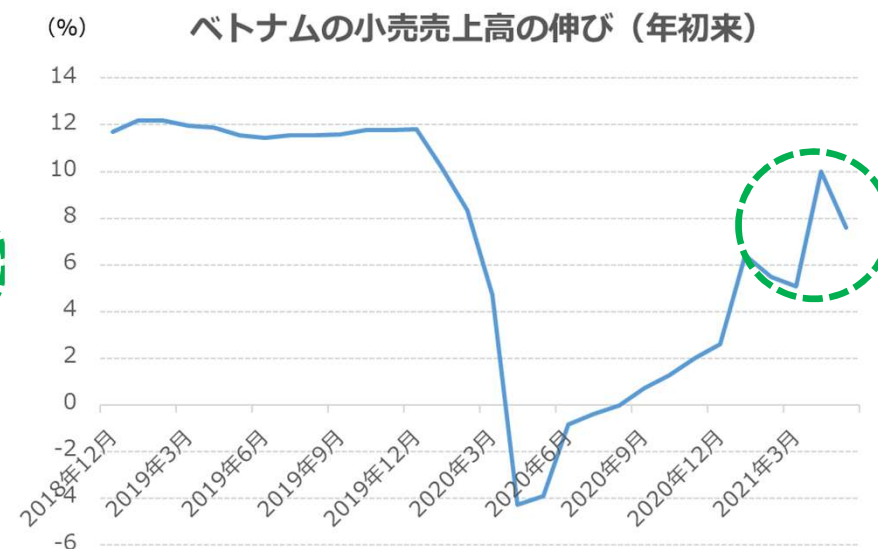
※感染者数は5/30時点、接種状況は5/25時点のもの、**赤字文字は累計感染者数が前月比50%以上増加した地域。**
 [出所：政府発表と各種情報、ブルームバーグ、アイザワ証券作成]

- 今年4月～5月にかけて、今まで新型コロナウイルスの感染封じ込めに成功していたタイやベトナム、台湾で新規感染者が見つかり、アジア各地域で新型コロナウイルスの感染拡大懸念が再燃した。そうした中で、ベトナムと台湾の生産活動（工業団地と半導体・電子部品工場等）への影響が注目されている。

ベトナム：輸出好調、新型コロナウイルス感染再拡大で消費は減速



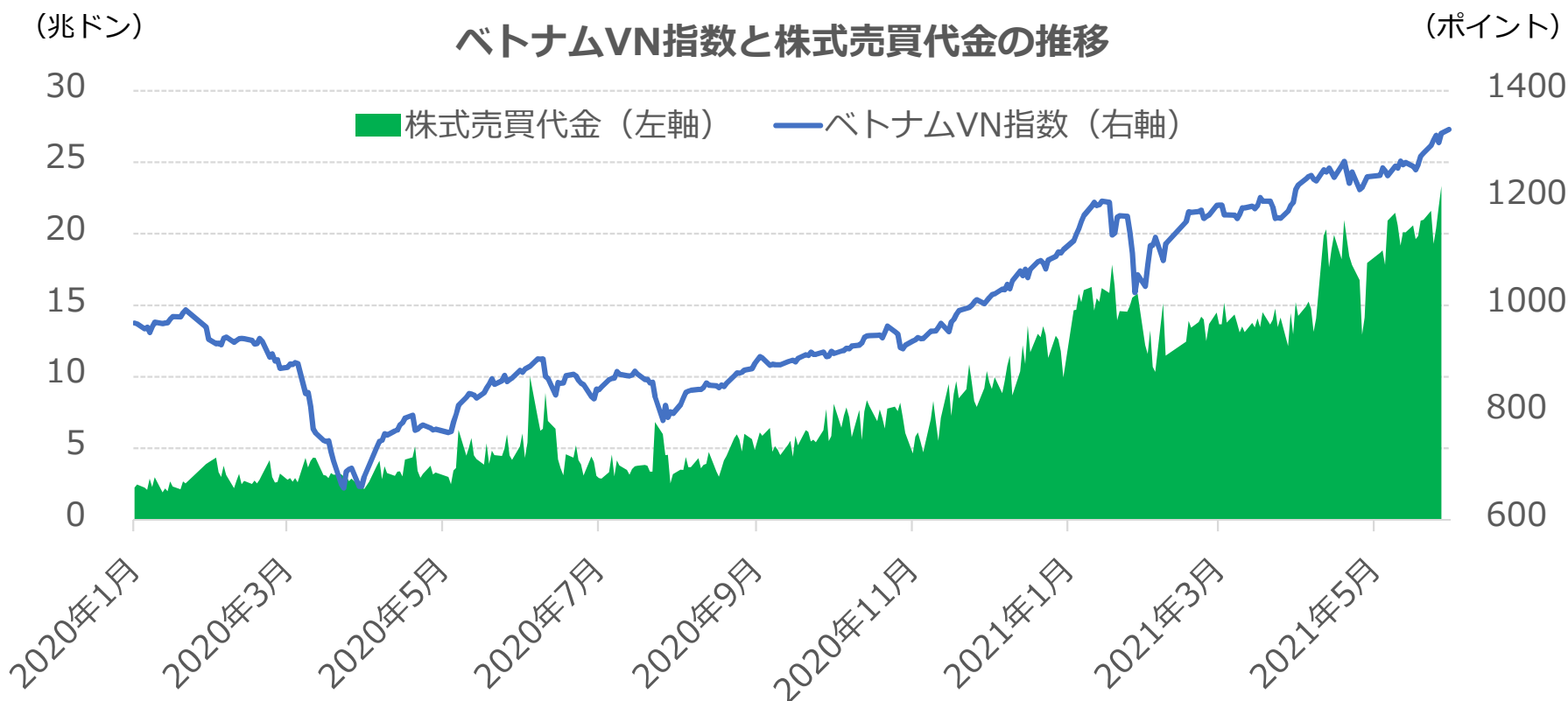
〔出所：ブルームバーグ、アイザワ証券作成〕



〔出所：ブルームバーグ、アイザワ証券作成〕

- ベトナム統計総局が発表した5月の輸出金額は前年同期比+35.6%の260億米ドル（1～5月累計で+30.7%の1309億米ドル）と前月に続いて高い伸びを維持し、主に米中向けの輸出増加が目立った。品目別では機械・機械設備（同+56.8%）、鉄鋼（同+211.9%）などの輸出が好調だった一方、電子・電子部品（同+9.4%）と電話（同+26.4%）は前月に比べて伸び率が減速した。
- ベトナム統計総局が発表した1～5月累計の小売売上高は前年同期比+7.6%と堅調に推移し、項目別では小売商品およびサービスが同+7.8%、ホテル・レストランが+4.6%、観光が同-48.2%、その他サービスが同+10.9%と、全体の約8割を占める小売商品およびサービスが回復基調を維持した。ただ、足元では新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて、5月単月の小売売上高は同-1%と約1年ぶりに前年割れとなっており、今後は政府の感染対策と国内消費への影響が注目される。

VN指数は史上最高値を更新、売買代金は昨年末の2倍超に



[出所：ブルームバーグ、アイザワ証券作成]

- ベトナムのVN指数は、好調な輸出や金融緩和を背景に新高値を更新し続け、5月31日に史上最高値（1328ポイント、終値ベース）をつけた。また、ホーチミン証券取引所の1日あたりの株式売買代金も20兆ドン（約940億円）超と昨年末の2倍以上に膨らんだ。個別銘柄では、鉄鋼大手のホアファット（ベトナム：HPG）や銀行大手のベトナム産業貿易商業銀行（ベトナム：CTG）、コングロマリット大手のマッサングループ（ベトナム：MSN）などが物色され、相場全体の上昇をけん引した。

ベトナム市場の注目銘柄

輸出の拡大と年後半の消費回復を見込んで、輸出や不動産、消費関連銘柄に注目。

■ アンファット・バイオプラスチック（ベトナム：AAA）・・・包装資材の需要拡大で恩恵

ベトナムの大手プラスチック包装材メーカー。レジ袋や食品用ポリ袋、ストロー、農業用フィルム、医療用マスク・防護服などの製造販売を手掛けており、生分解性プラスチックの製造に強み。2021年1～3月決算は前年同期比45%増収、同28%増益と好調。海外やEコマース、食品・飲料向け包装資材の需要拡大を背景に、同社は通期の業績目標を前年比28%増収、税引き後利益2倍に設定している。

■ ビンホームズ（ベトナム：VHM）・・・金融緩和は不動産事業の追い風に、工業団地にも期待

ベトナム最大のコングロマリットであるビンググループの中核子会社。住宅の開発や管理を行っており、中高級マンションに強みを持っている。2020年本決算は前年比37%増収、同28%増益と好調。ベトナム中銀による金融緩和は同社の不動産事業の追い風になっているほか、傘下子会社も2カ所の工業団地の開業を予定しており、FTAやRCEPの合意・発効で今後の成長が期待される。

■ マッサングループ（ベトナム：MSN）・・・新型コロナ禍後に食品や小売関連事業の回復を見込む

ベトナムの大手コングロマリット。食品や飲料、畜産、食肉加工、鉱業、金融業など幅広い事業を手掛ける。2019年にビンググループからスーパーマーケットの「ビンマート」とコンビニの「ビンマート・プラス」を買収し、小売業にも参入。2020年本決算は前年比107%増収、同78%減益と、大型買収に伴う財務負担や販売費が膨らんだため大幅減益になった。2021年は新型コロナ禍後の消費回復を見込んで、同社は通期の業績目標を前年比19%～32%増収、純利益が同2～3.2倍に設定している。

金融商品取引法に基づく表示事項

■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：藍澤証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第6号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

株式投資の主なリスク

株価・為替の変動リスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。外国株式は、為替の変動等により、損失が生じるおそれがあります。

流動性リスク

流動性が低い銘柄の場合、市況または注文の規模により、望ましい価格での売買注文の執行が常に可能とは限らず、極端な場合、取引ができないことがあります。

カントリーリスク

投資対象国の経済的要因、政治的要因、社会情勢の混乱により、株式市況が影響を受けることがあります。

また、各国の慣習や文化などの違いにご注意ください。

お客様にご負担いただく手数料等について

外国証券の外国取引にあたっては、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます（最低手数料は買いの場合のみ5,500円）。

対面口座：売買代金の一律2.20%

インターネット口座「ブルートレード」：

インターネット発注 売買代金の1.65%

コールセンター発注 売買代金の1.98%

コンサルネット発注 売買代金の2.20%

外国証券の売買等にあたり、円貨と外貨を交換する際には、外国為替市場の動向をふまえて

当社が決定した為替レートによるものとします。

お取引の際は、契約締結前交付書面等をよくお読み下さい。



アイザワ証券 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。

本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。

結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。

執筆担当者またはアイザワ証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。